を全量ピペットを用いて量り、塩酸（9→250）2mLと水12mLを全量ピペットを用いて加え、標準液とする。また、別に、塩酸（9→250）2mLを全量ピペットを用いて量り、水6mLを全量ピペットを用いて加え、空試験溶液とする。次に、試料溶液、標準液及び空試験溶液それぞれ2mLずつを全量ピペットを用いて量り、25mLの全量フラスコに入れ、新たに調製したニンヒドリン・アスコルビン酸試液1mL及びピリジン1mLを全量ピペットを用いて加え、振り混ぜた後、水浴中で25分間加熱し、水冷後、水を標線まで加えて25mLとする。空試験溶液を対照液として波長570nmにおける試料溶液及び標準液の吸光度A_T及びA_Sを測定する。

メチオニン（$C_5H_{11}NO_2S$）の量（mg）＝定量用DL-メチオニンの量（mg）×$\frac{A_T}{A_S}$

(イ)　保存の方法の基準

硫酸亜鉛メチオニン製造用原体の保存の方法の基準を準用する。

(90)　硫酸コバルト（乾燥）

ア　製造用原体

(ア)　成分規格

含量　本品は、定量するとき、硫酸コバルト（$CoSO_4$）87.0%以上を含む。

物理的・化学的性質

①　本品は、淡桃色の粉末で、臭いはない。

②　本品は、水に徐々に溶け、エタノールにやや溶けにくい。

確認試験

①　本品の水溶液（1→200）5mLに1mol/L水酸化ナトリウム試液0.5mLを加えるとき、青色の沈殿を生じ、加熱するとき、褐色に変わる。

②　本品の水溶液（1→20）は、硫酸塩の定性反応を呈する。

純度試験

①　溶状　本品1.0g（0.95～1.04g）に希塩酸20mLを加えて溶かすとき、その溶液は、赤色で、澄明でなければならない。

②　鉛　本品1.0g（0.95～1.04g）を量り、硝酸（1→150）を加えて溶かし、20mLの全量フラスコに入れ、更に硝酸（1→150）を標線まで加えて20mLとする。これを試料溶液として鉛試験法（原子吸光光度法第1法）により鉛の試験を行うとき、その量は、20μg/g以下でなければならない。

③　ヒ素　本品2.0g（1.95～2.04g）を量り、水50mL及び希塩酸5mLを加えて溶かし、100mLの全量フラスコに入れ、水を標線まで加えて100mLとする。この溶液10mLを全量ピペットを用いて量り、これを試料溶液とし、装置Bを用いる方法によりヒ素の試験を行うとき、臭化第二水銀紙の色は、標準色より濃くてはならない（10μg/g以下）。

定量法　本品約0.4gを0.001gの桁まで量り、その数値を記録し、100mLの全量フラスコに入れ、希塩酸5mL及び水20mLを加えて溶かし、更に水を標線まで加えて100mLとする。この溶液10mLを全量ピペットを用いて量り、水100mLを加え、アンモニア試液でpHを8に合わせながら0.01mol/Lエチレンジアミン四酢酸二ナトリウム溶液で滴定する（指示薬　ムレキサイド指示薬0.2g（0.15～0.24g））。

0.01mol/Lエチレンジアミン四酢酸二ナトリウム溶液1mL＝1.550mg$CoSO_4$

(イ)　保存の方法の基準

密閉容器に保存すること。

イ　製剤

(ア)　成分規格

硫酸コバルト（乾燥）製造用原体の成分規格を準用する。

(イ)　保存の方法の基準

硫酸コバルト（乾燥）製造用原体の保存の方法の基準を準用する。

(91)　硫酸コバルト（結晶）

ア　製造用原体

(ア)　成分規格

含量　本品は、定量するとき、硫酸コバルト（$CoSO_4$・7H_2O）98.0～103.0%を含む。

物理的・化学的性質

①　本品は、光沢ある暗赤色で透明の結晶又は桃白色の砂状結晶で、臭いはない。

②　本品は、水に溶けやすく、エタノールにほとんど溶けない。

確認試験

①　本品の水溶液（1→100）5mLに、1mol/L水酸化ナトリウム試液0.5mLを加えるとき、青色の沈殿を生じ、加熱するとき、褐色に変わる。

②　本品の水溶液（1→10）は、硫酸塩の定性反応を呈する。

純度試液

①　溶状　本品1.0g（0.95～1.04g）に水20mLを加えて溶かすとき、その溶液は、赤色で、澄明でなければならない。

②　鉛　本品2.0g（1.95～2.04g）を量り、水50mL及び希塩酸5mLを加えて溶かし、100mLの全量フラスコに入れ、水を標線まで加えて100mLとする。この溶液50mLを全量ピペットを用いて量り、これを試料溶液として鉛試験法（ジチゾン法）により鉛の試験を行うとき、その量は、10μg/g以下でなければならない。

③　ヒ素　本品4.0g（3.95～4.04g）を量り、水50mL及び希塩酸5mLを加えて溶かし、100mLの全量フラスコに入れ、水を標線まで加えて100mLとする。この溶液10mLを全量ピペットを用いて量り、これを試料溶液とし、装置Bを用いる方法によりヒ素の試験を行うとき、臭化第二水銀紙の色は、標準色より濃くてはならない（5μg/g以下）。

定量法　本品約0.5gを0.001gの桁まで量り、その数値を記録し、100mLの全量フラスコに入れ、水50mLを加えて溶かし、更に水を標線まで加えて100mLとする。この溶液10mLを全量ピペットを用いて量り、水100mLを加え、アンモニア試液でpHを8に合わせながら0.01mol/Lエチレンジアミン四酢酸二ナトリウム溶液で滴定する（指示薬　ムレキサイド指示薬0.2g）。

0.01mol/Lエチレンジアミン四酢酸二ナトリウム溶液1mL＝2.811mg$CoSO_4$・7H_2O

(イ)　保存の方法の基準

密閉容器に保存すること。

イ　製剤（その1）

(ア)　成分規格

硫酸コバルト（結晶）製造用原体の成分規格を準用する。

(イ)　保存の方法の基準

硫酸コバルト（結晶）製造用原体の保存の方法の基準を準用する。